

Ly Thi My Nhung 氏の学位審査結果の要旨

主査：木梨 達雄

副査：小林 拓也、野村 昌作

サルコイドーシスは皮膚や肺、眼などの多臓器に類上皮細胞肉芽腫が形成される原因不明の疾患である。これまで免疫病態としてヘルパーT細胞やB細胞の関与が示唆されていたが、ヘルパーT細胞のサブセットでB細胞の分化や高親和性抗体産生に重要な働きをする濾胞性ヘルパーT細胞である T_{FH} の関与については不明であった。この研究ではサルコイドーシス患者の末梢血および皮膚の肉芽腫を調べ、 T_{FH} の関与を検討した。サルコイドーシス患者では健常者に比較し、末梢血に含まれる T_{FH} は減少し、皮膚病変で検出された。 T_{FH} の亜集団としてCCR6陽性 T_{FH17} サブセットが増加していた。 T_{FH17} はIL-17のmRNA産生亢進し、血中IL-17が有意に増加していた。一方、血清中のIL-21やCD40L、IL-6が増加していたが、 T_{FH} ではmRNAの有意な増加は見られなかった。これらのことからサルコイドーシス患者では T_{FH} が T_{FH17} サブセットにシフトし、血中から皮膚病変に移行して、IL-17を産生することでTh17優位の炎症を引き起こしていることが示唆された。この報告はサルコイドーシス患者における T_{FH} サブセットの変化を明らかにしたことから、病態理解をすすめたものとして学位に値すると判断される。